

Ⅳ 学外との連携

ここでは、大阪市立大学「女性研究者ネットワークシステム」の共同利用（2016年度開始）、及び大阪市立大学を代表機関として本学を含む4機関で共同申請し2017年度に採択された、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）（2017～2022年度）」について成果を示している。

「女性研究者ネットワークシステム」では、引き続き共同利用しているが、特に研究支援員については学内でのマッチングができていないため利用は進んでいないものの、引き続き必要に応じて活用できる支援のひとつとしている。

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」では、補助金期間が2019年度をもって終了していることから、2020年度からは各機関の予算となり限られた学内予算の中で既存の取り組みを組み合わせるなどして、次の事業を引き続き実施した。

1. 連携型共同研究助成（2020～2021年度に本学の女性研究者が研究代表者となったもの計11件）
2. 研究支援員制度（2020～2021年度に制度利用者延べ11名）
3. 「ダイバーシティ保育サポーター」養成セミナー（学生・地域住民等を対象に2020～2021年度に計3回実施）
4. 管理職研修／ダイバーシティ推進セミナー（2020～2021年度に計2回実施、本学「教職員セミナー」としての実施をこの連携事業として連携機関に展開）
5. 外国語論文校閲・翻訳費用助成事業（2019年度）
6. 保育サポート事業（2020～2021年度）
7. 女性研究者交流会（連携機関の女性研究者の交流会 本学の女性研究者が2020・2021年度参加）

IV 学外との連携

IV-1 大阪市立大学「女性研究者ネットワークシステム」共同利用

大阪市立大学が開発・運用し、既に大阪府立大学及び羽衣国際大学と共同利用していた「女性研究者ネットワークシステム」を、本学の構成員も利用できるように、2016年4月に覚書を交わした。

本システムは、人材データベースとソーシャル・ネットワーキング・サービスの2つの機能を持ち、利用者同士の双方向による情報交流の促進とコミュニティの構築を目指してきた。2020年3月をもってソーシャル・ネットワーキング・サービスの機能の運用は終了したが、引き続き人材データベース機能として、研究を補助する人材を必要とする研究者、研究支援員になりたい学生・大学院生等が登録することができる。この機能を利用して、2016、2017の各年度に1組ずつ、本学の女性研究者と大阪市立大学の大学院生のマッチングが成立し、研究支援員として受け入れた。近年では支援員は基本的に本学の学生でマッチングができていたため利用は進んでいないものの、引き続き必要に応じて活用できる支援のひとつとしている。

IV-2 文部科学省科学技術人材育成費補助事業の実施

2017年度、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に、大阪市立大学を代表機関として、和歌山大学、積水ハウス株式会社と本学の4機関（以下、連携機関という。）で共同申請し、採択された。

この事業は、研究環境のダイバーシティを高め優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントやワークライフバランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取り組み、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用の取り組みを支援するものであり、事業期間は、2017～2022年度の6年間である。

2020～2021年度について、具体的には以下のような取り組みを実施した。



1) 連携型共同研究助成費付与

女性研究者の研究力の向上や南近畿の研究ネットワーク拡大を図るため、連携機関に所属する女性研究者を研究代表者（PI）とした、2連携機関以上の研究者による共同研究に対し研究費の助成（1件当たり2020年度は上限100万円、2021年度は上限50万円）を行った。なお、2019年度で補助金期間終了により、2020年度以降は各機関の予算となり、本学では学内配分予算縮小により、当該研究費予算も減額となっているが継続実施している。

連携機関が共同で作成した実施要領に基づき、連携機関連絡会議での審査を行い、2020年度には18件、2021年度には16件の研究課題が採択された。本学の女性研究者がPIとなったものは表IV-2-①のとおりである。

表 IV-2-① 本学女性研究者がPIとなり連携型共同研究助成が付与された研究課題

2020年度

代表者 (所属 職名)	研究課題	共同研究者 (所属 職名)
井奥 加奈 教育学部 教授	Society5.0に対応した調理科学を基礎とするオンライン実験に関する基礎的検討	小島 明子 大阪市立大 学生生活科学研究科 准教授 福田 ひとみ 帝塚山学院大学 人間科学部 教授 松村 羊子 畿央大学 健康科学部 教授
田村 知子 連合教職実践研究科 教授	危機的状況下の学校におけるカリキュラムマネジメント-教育委員会の施策と各学校のカリキュラム・リーダーシップに着目して-	田中 満公子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 岡田 和子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 長谷川 和弘 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 餅木 哲郎 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 木原 俊行 大阪教育大学 連合教職実践研究科 教授 佃 千春 大阪教育大学 学務部教務課 特命職員 島田 希 大阪市立大学 文学研究科 准教授
碓田 智子 教育学部 教授	住文化を伝える生きた実物教材としての重文民家の活用に関する研究	長谷川 ユリ 大阪教育大学 教育学部 教授 西川 章江 大阪教育大学 教育学部 准教授 小池 志保子 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授
岡崎 純子 教育学部 教授	シダ植物の多様性の起源：倍数化を通じた進化過程	名波 哲 大阪市立大学 理学研究科 准教授
青木 宏子 教育学部 特任准教授	美術鑑賞教材『アート と ともだち』を用いた教育の実践と検証	渡邊 美香 大阪教育大学 教育学部 准教授 高橋 暁生 積水ハウス株式会社 ESG 経営推進本部 美術館事業室

出野 文莉 教育学部 准教授	幼稚園児・小学生の漢字教育 の改善提案について	森 久佳 大阪市立大学 文学研究科 准教授
----------------------	----------------------------	--------------------------

2021 年度

代表者 (所属 職名)	研究課題	共同研究者 (所属 職名)
渡邊 美香 教育学部 准教授	図画工作科・美術科教材の WEB モデルの構築 ―美術館 鑑賞教材をモデルとして―	青木 宏子 大阪教育大学 教育学部 非常勤講師 高橋 暁生 積水ハウス株式会社 ESG 経営推進本部 美術館事業室
井奥 加奈 教育学部 教授	食物学基礎実験の一環として のオンライン実験と教育効果 に関する研究	小島 明子 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 福田 ひとみ 手塚山学院大学 人間科学部 教授 松村 羊子 畿央大学 健康科学部 教授
岡崎 純子 教育学部 教授	広域分布種における交雑ゾー ンでの遺伝的多様性と形態変 異の解析	植松 千代美 大阪市立大学 理学研究科 准教授
出野 文莉 教育学部 准教授	オンラインによる幼稚園児・ 小学生の漢字教材の提案	大岩本 幸次 大阪市立大学 文学研究科 教授
田村 知子 連合教職実践研 究科 教授	With コロナのカリキュラム マネジメントの探索	島田 希 大阪市立大学 文学研究科 准教授 田中 満公子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 岡田 和子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 佃 千春 大阪教育大学 学務部教務課 特命職員 田中 真秀 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任准教授 木原 俊行 大阪教育大学 連合教職実践研究科 教授

2) 研究支援員制度

研究支援員制度は、出産・育児・介護を抱える女性研究者の研究支援のために、研究支援員（学生、大学院生等）を配置する制度である。研究支援員は、研究者の監督・指示の下、実験補助、資料作成、データ整理等の幅広い支援業務を行う。



前述の「女性研究者ネットワークシステム」によるマッチングに抛らず、学内に候補者がいる場合も制度利用の申請を可能としており、利用実績は表IV-2-②のとおりである。

表IV-2-② 研究支援員利用実績(延べ数)

2020年度		2021年度	
制度利用者	研究支援員	制度利用者	研究支援員
7名	8名	4名	4名

3) 「ダイバーシティ保育サポーター」養成セミナー

大学のキャンパス等でイベント時に一時保育を行う場合の支援者「保育サポーター」を育成するため、学生や地域住民等を対象にセミナーを実施した。開催実績は次のとおりである。

なお、本事業の次年度以降の課題の1つとして、その成果の検証がある。保育サポート事業に参加した学生が、その後どのような活動にかかわったのか、あるいは関連する諸課題に関心を持つようになったのか、エビデンスを収集することで成果を確認する必要がある。その結果を踏まえ、改善点を検討したい。

○2020年度第1回

日時：2021年2月13日（土）
 内容：子育てイベントでのサポート
 講師：小崎恭弘氏（本学准教授）
 当日の受講者数：3名（コロナ禍により活動サポーターに人数制限あり）

今年度はコロナ禍により学童保育プログラム「キッズサマーキャンパス」を実施できなかったが、保育サポーターが実践の場を経験できる機会として、本学所在の柏原市が運営する子育て支援施設において本学准教授小崎恭弘が講師を務める子育てイベント「パパ、ママと一緒に遊ぼう」～子どもと仲良くなるポイント～でのサポートを実施した。講師のアシスタントや保護者・子どものフォローから、感染予防対策や実施後の消毒作業等も行った。密を避けるため派遣できるサポーター人数は限られていたが、実際に子どもとふれあいながら子どもへの関わり方を学ぶことのできる貴重な機会となった。



○2020 年度第 2 回

日時：2021 年 2 月 24 日（水）13：30-15：00（Zoom ライブ配信）
2021 年 3 月 15 日（月）～3 月 31 日（水）（オンデマンド配信）
内容：保育サポーター養成研修
講師：井上鈴佳氏（本学卒業生）
会場：オンライン開催（ライブ配信ならびにオンデマンド配信）
当日の受講者数：45 名（うちオンデマンド配信 28 名）

講師の井上鈴佳氏は、本学卒業後 中学校・高等学校の養護教諭として勤務。同性のパートナーと安心・安全に暮らすことの出来る世の中をめざし、講演活動のほか、小中学校における LGBT 教育と授業後の討議会へ参加されている。本研修では「あなたの身近にもいる LGBT～男女や LGBT だけじゃない！性のあり方は十人十色～」で講演いただいた。受講生は、「当事者に一人で悩ませない社会」「カミングアウトや相談のしやすい環境づくりのため、まずはその存在と多様性を知ることが大切」等の認識を共有し、当該テーマについて理解を深めるきっかけとなった。

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究推進実現イニシアティブ（牽引型）」

令和2年度 保育サポーター養成研修講演会

▶ オンライン開催（オンデマンド型） ◀

実施期間 令和3年3月15日(月)～令和3年3月31日(水)

講師 井上 鈴佳 氏

あなたの身近にもいるLGBT
～男女やLGBTだけじゃない！性のあり方は十人十色～

【 概要 】
平成元年生まれ。
大阪教育大学 教育学部養護教諭養成課程 卒業後、中学校・高等学校の保健室で勤務。
『性の人権』というテーマを軸に活動により、自身のこれまでの経験とこの職業の
すべの経験が結び、レスポンスであることに気づく。
現在は同性のパートナーと安心・安全に暮らすことの出来る世の中をめざし、より多くの
人が多様性を認め、幸せに暮らすことのできる世の中をつくることを目指して活動中。
大阪府大阪市養護教諭協会、大阪府立総合人材開発センターなどで講演活動を行う。小中学校における
LGBT教育の授業と授業後の討議会への参加等を行っている。また平成29年からは、大阪府内の小
中学校・高等学校、特別支援学校での養護教諭研修や子どもたちへの特別授業など、LGBTの多
様性に関する出張授業を積極的に行っている。

【 対象 】
養護教諭に所属する学生・教職員

開催形式
オンライン開催（オンデマンド型）

申込方法
下記URLあるいは2次元コードから申込ください。
<https://enq.bar.osaka-kyokoku.ac.jp/smart/enq.asp?U=0002000026138192449>
(申込受付は3月28日23:59まで)
メールにて視聴用URLをお送りいたします。

■ 実行委員会
事務局 大阪府立総合人材開発センター 電話 072-978-3249 / Email: tsushu@bar.osaka-kyokoku.ac.jp
〒100-8305 東京都千代田区千代田1-1-1 日本橋本町1丁目1番1号 日本橋本町1丁目1番1号 日本橋本町1丁目1番1号

【主催】大阪教育大学 【共催】大阪府立大学・和歌山大学・慶応大学

○2021 年度第 1 回

日時：2021 年 7 月 12 日（月）
内容：保育サポーター養成研修
講師：金坂尚人氏（神戸市立六甲道児童館館長）
会場：大阪教育大学柏原キャンパス
当日の受講者数：6 名（授業への参加につき人数制限あり）

小崎恭弘教授（教員養成課程（健康安全教育系）家政教育部門 大学院担当教授）の授業「保育学Ⅰ」と「教材・題材開発研究〔家庭／中高〕」に保育サポーターが参加する形で実施した。今回は授業のため人数に制限があり、今回は本学の保育サポーター(学生、柏原市の保育士及び幼稚園教諭)のみでの実施となった。研修は、子どもたちが遊びの中で失敗しながら学ぶ過程について知ることを目的に、「泥だんごづくり」を実際に体験する形で行われた。参加者は、本研修から子どもたちが泥だんごづくりの過程でどのような経験をするか、様々な遊びの可能性を自由に見つけていく姿等をどのように見守っていけばよいかについて学んだ。



4) 管理職研修／ダイバーシティ推進セミナー

女性研究者自らの上位職登用に関する意識啓発、また管理職を対象とした女性研究者の積極登用や管理職育成改革を醸成するためのキャリア研修を実施した。なお、補助金期間が終了しているため、新たに講師を招いての実施ではなく、学内での教職員セミナーの録画をオンデマンド型で「ダイバーシティ推進セミナーとして」4連携機関に展開した。（詳細については31頁参照）。

○2020年度 ダイバーシティ推進セミナー

日時：2021年2月1日（月）～2月28日（日）オンデマンド開催
 内容：講演会「安全・安心な関係性と性的健康（sexual health）
 ～コロナ禍におけるトラウマインフォームドケア～」
 講師：野坂 祐子氏（大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授）
 参加者数：64名

○2021年度

日時：2021年8月3日（火）～8月30日（月）オンデマンド開催
 内容：講演会「ダイバーシティと評価」
 講師：添田 久美子氏（和歌山大学副学長）
 参加者数：94名

5) 外国語論文校閲・翻訳費用助成事業

女性研究者のキャリアアップには外国語論文の作成が必須であることから、女性研究者の国際的な研究力向上のために、外国語論文校閲・翻訳費として支援した。

助成対象となったのは、国外の学術雑誌等へ投稿される外国語論文2件、国際会議等のための外国語による発表用の原稿2件であった。

2020年度 3件 2020年5月1日～2021年3月末。上限5万円(税込み)

2021年度 1件 2021年6月1日～2022年3月末。上限5万円(税込み)

6) 保育サポート事業

代表機関である大阪市立大学において2015年度より構築・運用されている独自の保育サポート事業制度(夜間・休日・病児・病後児保育, 学童保育利用料補助事業)を参考に, 2019年度後期より導入したものであり, 病児・病後児保育については1回2000円, それ以外については月5000円までの利用料の補助を行うものである。

実施期間: 2020年4月1日(水)～2022年3月31日(木)

利用件数: 20件

2020年2名7件

2021年4名13件

7) 女性研究者交流会

共同実施機関である積水ハウス株式会社により主催された女性研究者交流会は, 女性研究者が集い, 学び, 情報交換をする貴重な機会となっている。この交流会は, 日頃の研究成果発表の場となるとともに, 研究者の生き方, 家族のあり方などを考える場にもなっている。本学の女性研究者が研究発表などを行った交流会は以下の通りである。

○2020年度 第4回女性研究者研究発表交流会

日時: 2020年12月11日(金) オンライン (Zoom) 参加者数: 約36名

講演: 「リケジョからリケジョにおくる, 新しいキャリアの考え方」

伊藤久美氏 (4U Lifecare 株式会社 代表取締役社長 CEO)

研究発表:

「多世帯住居に関する研究 共同研究成果の一般生活者への発信」

平岡千穂氏 (積水ハウス株式会社 住生活研究所)

「近居する親子世帯における子育て期の生活共同化と住み方

24件のインタビュー調査から」

白井友崇氏 藤本真凜氏 (大阪市立大学 生活科学研究科 修士課程)

「食品機能研究から多面的・多角的に考える食生活研究へ」

西川章江氏 (大阪教育大学 教育協働学科 准教授)

「地域包括的な性教育モデルの展望」

藤田絵理子氏 (和歌山大学 教育学部 特任助教)

研究発表者の一人として、本学の西川章江准教授が研究発表を行った。Zoom 開催となり、女性研究者同士の直接の交流はできなかったが、参加者の有意義な時間となった。

○2021 年度 第 5 回女性研究者研究発表交流会

日時：2021 年 12 月 3 日（金） オンライン（Zoom） 参加者数：約 50 名
講演：「理系女性の人生設計～自分を生かしたキャリアへ」
山本佳世子氏（日刊工業新聞論説委員兼編集委員）
聞き手 河崎由美子氏（積水ハウス株式会社執行役員・住生活研究所長）
研究発表：
産学官連携ウイメンズユニット（WUSO）
「住まいにおける子どものオンライン学習スペースの研究」
杉田菜穂氏（大阪市立大学経済学研究科准教授）
秋山寿美江氏（積水ハウス株式会社住生活研究所課長）
パネルディスカッション：
「女性研究者が語る，研究者のキャリアプラン」
モデレーター 杉田菜穂氏（大阪市立大学経済学研究科准教授）
パネラー 出野文莉氏（大阪教育大学教育学部准教授）
金川めぐみ氏（和歌山大学学長補佐，経済学部教授）
辻川ひとみ氏（帝塚山大学現代生活学部学部長，教授）
秋山寿美江氏（積水ハウス株式会社住生活研究所課長）
アドバイザー 山本佳世子氏

パネリストの一人として、本学の出野文莉准教授が「女性研究者が語る，研究者のキャリアプラン」として自身の経験をもとに語り，引き続きパネラーとしてディスカッションを行った。その後の質疑応答では活発な意見交換が行われた。